１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０１２年1月２５日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　４０６７号

SSKU

お元気ですか？ イリアンソスです。

2012 冬

きょうされん全国大会 in 滋賀

「はたらく仲間のうた」カレンダー

理事長の散歩道

「障害者観の変化、
出来ないことから出来ることへ」

特集

「震災を考える」

～その時のために今できること～

社会福祉法人イリアンソス
●のぞみの家
東久留米市下里２－７－１８
０４２－４７３－９０２７
０４２－４７３－９０３６（F）
nozomi@iriansos.or. jp
●活動センターかなえ
東久留米市南沢２－２０－５１
０４２－４５１－０２５２
０４２－４５１－０２６２（F）
kanae@iriansos.or. jp
●なかまの家
東久留米市中央町２－１－４７
０４２－４７２－７１３０
０４２－４４４－３７２２（F）
nakama@iriansos.or.jp
●生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里４－２－７
０４２－４７６－３４００(F 兼)
sora@iriansos.or.jp
●生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里５－１０－１０
０４２－４２０－９９４３
kaze@iriansos.or.jp

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０１２年1月２５日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　４０６７号

理事長の散歩道

理事長の散歩道　⑪

「障害者観の変化、出来ないことから出来ることへ」

社会福祉法人イリアンソス
理事長　山田耕一郎

私は２０才の時、大病で死を宣告されました。その後、奇跡的に一年一年と行き続けて来ました。しかしいつ再発するかという不安を抱え、失った方ばかり見てきました。

なぜ、出来ないか？

…障害を慈善の対象から医学の対象に

私は私学の国語国文科に入学して中学校の国語の教師を目指していましたが、病気を機に、東京学芸大学の特殊教育科に入り直しました。お蔭さまで、その時から５０年間、障害児と関わり続ける道を与えられました。

ところで、その出発点で初めて教えられたことは、「特殊教育は、大脳生理学に基づく科学の対象である」ということでした。つまり、いろいろ出来ないこと、例えば目が見えない、耳が聞こえない、言葉が話せない、字が読めない、書けない…。これらは全て大脳の働きと関係していることである。どうのようにして大脳の生き残った細胞を働かせるかが教育方法の工夫点である。ということでした。そこに導いたのは１９世紀になって、小児精神科医のイタールやセガンという医師でした。

日本で全国の養護学校が義務化されたのは昭和５４年になってからであり、約３０年が経って、普通教育の教科の水増し的教育ではなく、体験的生活教育・職業教育といった大脳生理学に基づいた教育が行きわたってきたのです。「出来ないこと」を見つめるのではなく、「出来ること」を増やしていく教育に方向性です。

この子らを世の光に

…福祉感の１８０度の転換

我が国の福祉施設の父と言われた糸賀一雄氏は、重度の障害を持った人たちの生産とは何かを考え詰めて、「人々への心の生産」ということに思い至り、「この子らに世の光を」から「この子らを世の光に」にと、福祉感を百八十度転換させました。このテーマを基に、漁村の施設は海に繰り出し、山村の施設は林業に精を出して、地域のお役に立つ活動を展開しているところがあります。

私は１６年間の付属養護学校の教員を退き、茨城県常総市にある授産施設の園長として赴任しました。そして「例え一人ひとりの出来る力が小さくても、施設の園生と職員が力を一つにすれば、大きな力になる」と考えて、工業団地の除草作業や近隣の畑の野菜作りや陶芸の制作に打ち込みました。まさに、この子らを世の光にへの実践でした。

出来ることを生かすのは

…ＷＨＯの判断の変化

ＷＨＯとは世界保健機構の略ですが、「国際障害者年」とか、「平等と参加」を提唱したと言えば、「ああ、あれか」と、お分かりの方も多いでしょう。初めは、障害者がおかれた不平等とか社会からの根絶といった格差に目も向けて、その改善をテーマに考え進め、まず「完全参加と平等」が提案されました。その後丁寧に会議を重ねて行き、確認されたことがいくつかあります。

①障害とは万人共通の体験である。②障害は、その人を他の人とは違ったものだとする目印ではない。

これは、大脳の働きに何らかの障害を受けると誰でもハンディキャップが現れるということです。決して、特定の人だけに課せられたものではありません。また、社会政策上の意義として、次の点を上げています。①機会均等実現への援助②自立の選択を増やすための社会の肯定的対応の確立③生活状況と生活の質（ＱＯＬ）の改善

つまり、失ったものを可哀そうという観点から社会政策も考えるのではなく、残っている「出来る力」を社会のために発揮していくには「社会環境はどうあるべきかを基本に、政策を考えて行くべきだ。」という立場です。

私たちは、みんなで力を合わせて、この世界の潮流に乗った方向性を大切にして行きましょう。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０１２年1月２５日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　４０６７号

震災を考える～その時のために今できること～

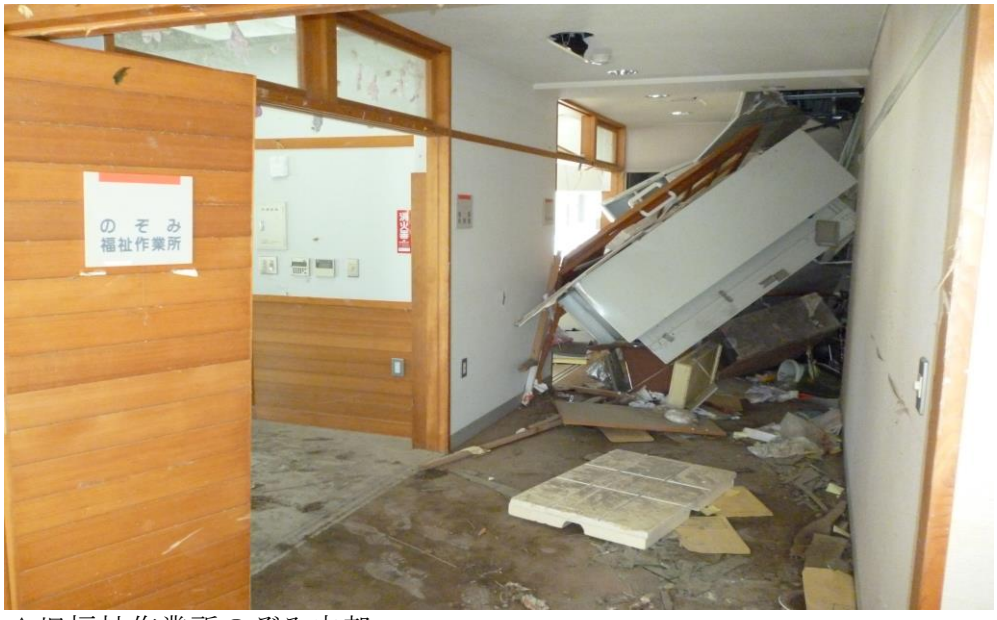
△石巻市雄勝町　津波で観光バスが建物の２階に…

昨年の３月11日の東北大震災は、多くの人の命や生活を奪ってしまいました。

わたしは、法人を代表して日本障害フォーラム（ＪＤＦ）の一員として、宮城県の支援に入りました。気仙沼市、南三陸町、女川町、石巻市等々現地の傷跡は生々しく初めて見る光景に、津波の恐ろしさを実感しました。そして、被災された方の話も聞かせていただきました。紙一重で生きる残れた話や広い避難場所で苦労した話、仮設住宅や自力で民間のアパートを借りて避難した話など胸を打たれました。

みなさん。どうしようもない天災でしたが、あの時こうしておけばよかった、甘く見ていたなどといった声や障害のある人の被災の実態や避難場所での苦労を聞くと、日頃からの備えの必要性を感じます。今回、法人では若い職員を中心に防災会議を開催しています。それぞれの事業所が防災についてどう考えるか、他の事業所とも情報交換をしながら進めています。今回、特集では防災をテーマに、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。ぜひ意見を聞かせてください。

防災担当　磯部　光孝



△旧福祉作業所のぞみ内部

生活寮での避難訓練・防災対策

生活寮「そら」　安達

3月11日の震災以来、避難訓練の必要性は認識していましたが、「うみ・そら・にじ・かぜ、どの寮から始めるのか？」「生活寮は活動時間が長い。どの時間設定で行うのか？」「入居者さんも参加するのか？」などの意見が出され具体的な計画がなかなか立たない状態でした。

しかし「とにかく第一歩を踏み出さなければならない」との認識を元に場所を「そら」、時間設定を夕食後から入浴中の午後8時とし、職員が入居者さんの代役をすることとして、7月27日の日中に第一回避難訓練を行いました。訓練の結果、避難のリーダーとなる職員の役割は果たせたのか？避難に必要な道具はなんだろう？隣接する「うみ」との連携も忘れてはならないなど、課題点も見えそれぞれを確認することが出来ました。今後もさまざまな状況を想定して訓練を行って行きたいと思います。

また生活寮にどのような物を備蓄しておくのか、ということも課題です。食品や水、医薬品、生活用品など適切な種類と量を把握して揃えて行かなければならないと思います。

さて写真は非常用自家発電器のテストの様子です。幸い震災直後の計画停電は一度しかありませんでした（午後7時から9時まで）。しかし寮内が暗くなり、じわじわと寒くなってきて不安を感じました。突然の停電に備え何時でも発電機が使えるように準備をしていきたいと思います。

△発電器のテストの様子

「地震だ！」なかまの家避難訓練実施中！！

なかまの家　大河原

お昼休みの時間に避難訓練です。ゆっくりお茶を飲んでいたところに、スタッフの「地震です！」の声。一斉に机の下に入ります。机の下に入るのを嫌がっていた人も、3月11日の震災以降の訓練では、机の下に入れるようになった人もいます。

机の下に入るのが難しい人や、すぐに机の下に入れない人達はスタッフと一緒に毛布を被り頭部を保護します。なかまの家では、毎月1回訓練を行っていますが、利用者の人も少しずつ慣れてきました。

仲間の家
避難訓練の様子

「火災発生！」のぞみの家避難訓練

のぞみの家　酒井

のぞみの家では、定期的に避難訓練を実施しています。

実際に消防署の方に来ていただき、日中火事が起きたことを想定し、利用者さん、スタッフ共に隣の公園に逃げて避難訓練をしています。

しかし、今までのぞみの家は障害が重い方や車椅子の方が多いため、隣の公園に移動するだけの型だけのものになってしまい、イメージや意識を持つまでのものにあまりできていなかったのが現状でした。

私自身も『災害』に対して、「恐い」ものだというイメージがある一方、どこか自分とは関係のない違う世界の出来事のような、そんな認識でしかありませんでした。

三月十一日の東日本大震災の発生時、私の担当するおひさま班は午後の活動で調理を一階で行っていました。丁度カセットコンロで火を使っている最中の激しい揺れで、火を止め、全員窓ガラスや棚などから離れたものの、事前に具体的なマニュアルを作ったり、話し合いをしたりしていなかったため、「その場から避難をするべきなのか？留まるべきなのか？」すぐに対応はできず、揺れがおさまるまでただ待つ事しかできませんでした。

また、たんぽぽ班はレクだったため車での移動中に、チャレンジ班は二階の部屋で仕事をしていましたが、戸棚から本が落ちたり、エレベーターが止まってしまったり、予想していなかったことに、利用者さんも驚き、戸惑っているようでした。

災害はいつどのタイミングで起こるかわかりません。事業所にいるとき、自宅やグループホームにいるとき、外出中のとき等、思わぬタイミングで起こるかもしれません。だからこそ利用者さんが安心して生活できるように法人、各事業所として災害時のマニュアル、防災備品や備蓄品などの見直しを行っていくことは大事なことですし、ご家庭や地域とのつながりは不可欠です。

またのぞみの家は災害時に障がいを持っている方が避難する福祉避難所にも指定されているので、震災が起きた場合、具体的にどのようなことが想定されるか？何が必要とされるか？食糧などの備蓄はどのくらい必要か？など、今後さらに議論し考えていくと共に改善、情報を共有していきたいと思います。

△避難経路の様子

活動センターかなえ防災対策

活動センターかなえ　大島

活動センターかなえ・なかまの家では、２週間に１度、防災担当会議をしています。会議では、非常持ち出し袋の中身や備蓄用の食糧について検討したり、排煙窓が正しく機能するかなどの設備をチェックしたり、避難訓練の計画を立てています。東日本大震災後は、避難場所や避難経路の確認などをしてきました。

また、月に１度、避難訓練を実施しています。避難訓練は、月ごとにスタッフのみの訓練や利用者も含めて火災・地震の訓練を行っています。地震の訓練では、初めは椅子にすわったままだったり、防災頭巾をかぶるだけだったり、スタッフの声かけだけではなかなか机の下に避難できませんでした。訓練を続けていくことで、頭だけ机の下に入れることから徐々に全身を机の下に入れることができるようになってきました。東日本大震災以降は、スタッフの声かけだけでも避難できるようになりました。

万が一の災害に備え、今後も訓練や防災対策をしていきます。

△避難訓練の様子

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０１２年1月２５日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　４０６７号

防災対策会議

3月11日に発生した東日本大震災の衝撃は、9カ月が経った今でも昨日のことのように鮮明によみがえります。地域により被害は異なるものの、ほとんどの方が災害の恐ろしさを体験したと思います。イリアンソスも例外ではなく、今回の災害を通し数々の問題点、疑問点、それに伴う不安点をいだきました。防災対策会議では、各施設や作業所で出された意見を基に今後についての対策を検討しています。

△防災対策会議の様子

防災対策の目的として次の3項目があげられます。法人の情報がスタッフ・家族にしっかり伝えていく仕組みをつくる目的。防災についての法人の具体的な対応策をつくって、利用者・家族・スタッフが安心して活動ができる環境をつくっていく目的。また、防災は地域との協力も必要です。日ごろの活動も含めて地域を知り、地域とのかかわりを深めていくことも目的の1つです。

今年度は、各施設・作業所の防災に対する認識を再度深めようという事もあり、避難訓練・備蓄品に重点をおいて活動をしてきました。各作業所では、避難訓練の実施をおこなっています。生活寮でも避難訓練をし、それについて話し合い今後の対策を深めています。実際に避難訓練をしてみると今まで気がつかなかった点や、こうすればよいと感じる点等を再確認でき、各施設とも防災への意識を高められたと思います。備蓄品についても、本当に必要なものは何か、施設へ備蓄するもの、それとは別に災害時に持ち歩ける必要最低限のものなど各施設でそれぞれ項目を挙げてそこから絞り込み対策を進めています。

3月の大震災のような事態がまたいつ、どこで身に降りかかってくるかわかりません。もしもの事態に備え、災厄を最悪の状況で迎えないように今後も防災対策を進めていきたいと思います。

防災担当　村越

笑顔に包まれた合同クリスマス会

生活寮「にじ」安達聡

12月20日、生活寮「うみ・そら・にじ・かぜ」合同クリスマス会を行いました。今まで「そら」を会場にして行ってきましたが、今年は「かぜ」に会場を移し、生活寮のみんなが一緒に盛り上がろう！とのことで5月のバーベキュー以来、2度目の合同イベントとなりました。

あれだけ広い「かぜ」のリビングも入居者さん・スタッフ合わせておよそ60名が集まると熱気でムンムン。おいしい料理を食べたり、職員の出し物があったり、もちろん今年もサンタさんが登場して盛り上がりは最高潮に！笑顔あふれる楽しいイベントになりました。

△クリスマス会の様子

がんばれ　イリアンソス！シリーズ④

地域との繋がり「ケーキ販売を通して」

社会福祉法人　竹恵会　けんちの里
ボランティアコーディネーター　野島京子

けんちの里は、平成元年十一月一日に東久留米で、初めての特別養護老人ホームとして開設した施設です。

東久留米市はもとより、地域の皆さんの期待は、大変だったようです。

「地域の皆さんとどの様な繋がりが作れるか？」私は、ボランティアの皆さんに話を聞き、他施設の職員と情報交換をし、地域を歩き回り、学校、商店などに声をかけて来ました。

特別養護老人ホーム　けんちの里は、毎年文化の日を開設記念日とし、文化祭を開催しております。

社会福祉法人イリアンソスさんは、当施設の近くに、生活寮「うみ」「そら」がある関係で、一番お付き合いが長いようです。文化祭では、皆さんが一生懸命手作りした、ビーズストラップ、ケーキなどを販売していただきましたが、なかなか売り上げも伸びない様子に、施設として申し訳ないと感じておりました。

「何か良い方法は無いか？」と考えた時、ケーキをブースで販売するのではなく、喫茶コーナーで提供したらどうかと考え、ケーキ作りをしているのぞみの家へ、平成二十年より発注させていただくことになりました。米粉のシフォンケーキ、チーズケーキ、かぼちゃのココナッツプディングをお客様に提供したところ、毎年完売、特にかぼちゃのココナッツプディングは、一番初めに無くなるほど好評です。また、月に五回ほどある施設内での喫茶でも、時々お願いしていますが、ケーキの種類が増えていくことに驚いています。

のぞみの家さんに伺うと「こんにちは、いつもありがとうございます。」と、大きな声で迎えてくださいます。また、職員の方がケーキ担当の利用者さんを呼んでくださり、職員だけで接客せず、焦らず自分で出来ることはしてもらう。そんな様子は、微笑ましく、「また、よろしくお願いします」と大きな声と笑顔で送っていただく姿には、二人三脚で頑張っているなといつも感心しております。これからも、地域と共にお互い手を取り合い、楽しい生活が送れるようにと願っております。

益々の発展とご活躍をお祈りしています。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０１２年1月２５日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　４０６７号

法人行事

『リサイクル久留店（くるてん）』
のぞみの家　チャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。
◎日程…2月9日（木）23日（木）
3月15日（木）29日（木）
◎場所…滝山団地センター前広場
※雨天中止、また、天候によっては中止・開催時間短縮の場合もあります。

ご寄付をいただきました。

（12月末まで）

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使わせていただきます。

藤田　祐子様
崎原　ひとみ様
吉江　剛様
野島　貞夫様
ありがとうございます。

表紙の写真

のぞみの家の松本真由美さんが「きょうされんグッズコンクール」に選ばれ、2012 年の「はたらく仲間のうた」卓上版カレンダーの４月を飾っています。写真は表彰式会場での一枚です。自身の絵を前に誇らしげです。
（左）きょうされん全国大会 in 滋賀
（右）卓上版カレンダー４月
のぞみでの旅行を思い出し『旅行ルンルン』

編集後記

早いもので、生活寮「にじ」「かぜ」がスタートして1年が経とうとしています。職員同士、今年は時間が経つのが早いねとよく話しています。クリスマス会も、今年は「うみ」「そら」も合わせて４つの寮が合同で行い大人数での会となりました。会場は「かぜ」での初の試みでしたが、楽しく終えることができホッとしています。

私事としては、今年は友人の結婚式に出席し、久しぶりに会う友人たちとの再会を嬉しく思ったり、高校を卒業してからの十数年をお互いに懐かしく振り返ったりと、今までに感じたことのない不思議な感覚を味わっています。学生のころに一緒に過ごした仲間が、それぞれの人生を歩んでいる姿を見たり話を聞くのは、とても幸せなことに感じました。
１年が経つのはあっという間でしたが、また２年目もよろしくお願いします。

生活寮「にじ」　白畑千恵子

《　発行　》
特定非営利法人　障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21
Tel 03-3416-1698　Fax 03-3416-3129

《　企画、編集　》
社会福祉法人　イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027　Fax 042-473-9036

《　編集委員会　》
安達　聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、多田由美、矢島正樹、吉田遊佑

定価一〇〇円